



今号の内容「今年度の主な研究成果を紹介」

- 酒造好適米新品種「酔むすび」の育成
- 温暖化を見据えたモモの晩生品種の選定

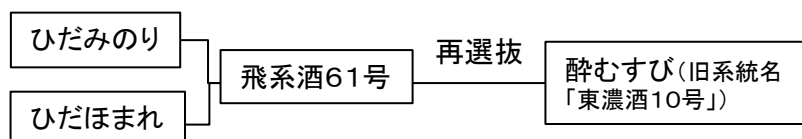
清流の国ぎふ

酒造好適米新品種「酔むすび」の育成

【支所担当／工藤溪汰】

県内で生産量が最も多い酒造好適米品種である「ひだほまれ」は、早生で心白が大きく、県山間高冷地帯の奨励品種に指定されています。一方で、県内の酒蔵からは中山間地帯でも「地域の酒米」として扱うことができる品種が要望されていました。そこで、中山間農業研究所中津川支所では「飛系酒61号」からの再選抜により中山間地帯向けの酒造好適米新品種として「酔むすび」を育成しました。本品種は令和6年1月30日に品種登録出願し、同年5月24日に出版公表されました。

「酔むすび」の育成経過



ひだほまれ 酔むすび コシヒカリ
図1 各品種の外観



酔むすび ひだほまれ

図2 各品種の玄米
(2024年産、中津川市)

温暖化を見据えたモモの晩生品種の選定

【本所担当／安江隆浩】

アメダス高山の観測によると、年平均気温の平年値(1991～2020年)が11.4℃に対し、2023年は12.6℃、2024年は13.0℃と暑い年が続いています。気温の上昇に伴い、モモの収穫時期は前進化すると予測され、実際に当研究所における「川中島白桃」の収穫始期は2011～2020年の平均値が8月26日なのに対し、2024年の8月15日でした。このため、これまでと同じ9月上旬まで飛騨モモを販売するには、「川中島白桃」よりさらに遅い品種が必要です。そこで、極晩生品種を導入し品種特性を調査したところ、これまでに「幸茜」、「だて白桃」の2品種が有望と判定されました。

【成果の内容・特徴】

- 1 「幸茜」
 - ・ 収穫時期が「川中島白桃」より12日遅い
 - ・ 味は濃厚で美味しく、安定している
 - ・ 果形が丸く箱詰めしやすいが、着色が良くない
 - ・ 生理落果がやや多い
 - ・ 樹勢がやや大人しいため、剪定はしやすい
 - ・ 花粉はある
- 2 「だて白桃」
 - ・ 収穫時期が「川中島白桃」より16日遅い
 - ・ 味は試食会で好評
 - ・ 着色は良好だが、果形が楕円で箱詰めに難
 - ・ 着色は良好
 - ・ 樹勢は強めで維持しやすい
 - ・ 花粉はある

【成果の留意点】

- 1 着色管理等の基本的な栽培技術は、慣行と同様
- 2 収穫始期が9月10日以降になると、温度不足等で完熟に至らない年があるため、「川中島白桃」の収穫始期が9月の地域への導入は避ける

幸茜



だて白桃



図3 樹上と箱詰め時の果実姿

令和6年度 成果検討会を開催しました

本年度の研究成果をお伝えし皆様からご意見・ご要望をいただく成果検討会を開催し、多くの方々にご参加いただきました。有意義なご検討をありがとうございました。今後の研究内容に反映して参ります。

【本所】

日 時：令和7年2月7日（金）
会 場：飛騨総合庁舎
参加者数：40名（職員除く）
発表課題数：6 課題
（下呂農林事務所 1 課題を含む）

【中津川支所】

日 時：令和7年2月14日（金）
会 場：恵那総合庁舎
参加者数：88名（職員除く）
発表課題数：7 課題
（恵那農林事務所 3 課題を含む）
※恵那農林事務所農業普及課との合同開催



酒米新品種「酔むすび」を使った新酒のお披露目会が開催されました。

令和7年2月21日（金）にアクティブGのふれあい広場で「酔むすび」を使った新酒のお披露目会が開催されました。鏡開きのあと、醸造された9蔵の新酒の試飲会、販売が行われました。研究所からは、展示コーナーで成果をPRしました。



岐阜県
中山間農業研究所

本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重二丁目6番56号
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751

中津川支所 〒508-0203 岐阜県中津川市福岡1821-175
TEL: 0573-72-2711 FAX: 0573-72-3910

研究所ホームページ <https://www.k-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

